

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成28年2月15日
【四半期会計期間】	第69期第3四半期(自平成27年10月1日至平成27年12月31日)
【会社名】	株式会社ケーブイケー(商号 株式会社 K V K )
【英訳名】	KVK CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 末松 正幸
【本店の所在の場所】	岐阜県岐阜市黒野308番地
【電話番号】	(058)239-3111(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営管理本部長兼経理部長 小関 智晶
【最寄りの連絡場所】	岐阜県岐阜市黒野308番地
【電話番号】	(058)239-3111(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営管理本部長兼経理部長 小関 智晶
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第68期 第3四半期 連結累計期間	第69期 第3四半期 連結累計期間	第68期
会計期間	自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日	自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高 (千円)	17,954,837	17,183,908	23,711,783
経常利益 (千円)	1,348,649	1,232,819	1,764,612
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	811,227	807,873	1,040,220
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,112,882	700,362	1,301,506
純資産額 (千円)	15,366,252	15,979,212	15,553,800
総資産額 (千円)	21,744,040	22,403,886	22,190,347
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	49.60	49.26	63.60
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	48.18	47.82	61.77
自己資本比率 (%)	70.2	70.8	69.6
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,353,541	884,760	2,467,355
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	166,878	858,873	209,285
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	309,869	310,655	327,575
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	2,842,975	3,568,155	3,887,377

回次	第68期 第3四半期 連結会計期間	第69期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日	自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	12.93	22.23

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

4. 四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成していません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び子会社1社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における事業環境は、政府の景気対策の効果もあり、国内経済は緩やかな回復基調で推移したものの、海外景気の下振れリスクなど不透明感が継続いたしました。新設住宅着工におきましては、住宅取得マインドに力強さを欠くなか、企業間の価格競争は激しさを増し、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況のなかで、当社グループは、3カ年中期経営計画「The Next Stage 80 ~新たな挑戦~」の達成に向け、お客様への新たな価値の提供をめざした強固な事業基盤づくりに取り組んでおります。

商品面では、安全・安心、快適、環境面からのニーズや生活スタイルの変化に対応した商品開発に取り組み、昨年7月に幅広く浴び心地の良い浴室用サーモスタット式水栓「オーバーヘッドシャワー」や、8月に美しいフォルムにこだわったキッチン用シングルレバー式シャワー付混合栓「グースネック水栓」、10月にはワンタッチで湯水の出し止めができる浴室用サーモスタット式水栓「楽ダス水栓」を市場に投入いたしました。

営業面では、お客様との接点を拡げるため昨年4月に京滋出張所を新設、7月に鹿児島出張所を営業所に昇格させ、10月には静岡出張所を新設し、営業体制を「4支社15営業所4出張所」に拡充し、販売とアフターサービスの両面からより地域に根ざした営業活動を推し進めております。また、7月に札幌営業所を幹線道路沿いへ移転するとともに物流倉庫を併設し、北海道内全域に翌日配達できる物流体制を整備いたしました。

生産面では、K P S（KVK Production System）活動を柱に、あらゆる無駄を排除し、コスト競争力の強化を推進いたしました。出荷に合わせて必要な物をタイミングよくつくるため、受注から調達・生産・出荷・納品までの全工程のモノと情報の“見える化”を追求し、受注の変動に柔軟に対応できる最適生産体制づくりに取り組んでおります。また、昨年4月に着工した砂型鑄造設備工事は、本年10月の量産化をめざし順調に進捗しております。

当第3四半期連結累計期間における連結業績につきましては、上期の住宅市況の回復遅れが影響し、売上高は171億83百万円（前年同期比4.3%減）となりました。利益面につきましては、グループ一丸となってトータルのコスト管理を強化し、固定費・変動費の引き下げに努めたものの、売上高の減少による影響を吸収しきれず営業利益は11億47百万円（前年同期比13.1%減）、経常利益は12億32百万円（前年同期比8.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は8億7百万円（前年同期比0.4%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、次に述べる売上高はセグメント間の内部売上高を含めて記載しております。

日本におきましては、新設住宅着工に関して住宅取得マインドに力強さを欠くなか、企業間の価格競争の影響で市況は厳しく、売上高は172億62百万円（前年同期比4.4%減）となりました。また、固定費・変動費の引下げに努めたものの売上高の減少により、営業利益は13億48百万円（前年同期比21.7%減）となりました。

中国におきましては、日本向けの輸出売上が減少したことで、売上高は37億30百万円（前年同期比0.5%減）となりました。その一方で、販売価格の見直しにより、営業利益は2億53百万円（前年同期は34百万円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態の分析

資産は、前連結会計年度末に比べ2億13百万円増加し、224億3百万円となりました。これは主に有形固定資産が4億55百万円増加した一方、現金及び預金が3億19百万円減少したことによります。

負債は、前連結会計年度末に比べ2億11百万円減少し、64億24百万円となりました。これは主に仕入債務が77百万円、未払法人税等が1億42百万円減少したことによります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ4億25百万円増加し、159億79百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益8億7百万円によるものです。この結果、自己資本比率は70.8%（前連結会計年度末は69.6%）となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ3億19百万円減少し、35億68百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは8億84百万円の収入（前年同期比4億68百万円の収入減）となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益12億10百万円、売上債権の増加2億25百万円、法人税等の支払額5億5百万円によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは8億58百万円の支出（前年同期比6億91百万円の支出増）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出7億81百万円によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは3億10百万円の支出（前年同期比0百万円の支出増）となりました。これは主に配当金の支払額2億86百万円によるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は2億74百万円であります。

## 第3【提出会社の状況】

## 1【株式等の状況】

## (1)【株式の総数等】

## 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	46,241,000
計	46,241,000

## 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成27年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成28年2月15日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	16,531,157	16,531,157	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は1,000株であります。
計	16,531,157	16,531,157		

## (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

## (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高(千円)
平成27年10月1日～ 平成27年12月31日		16,531,157		2,831,425		2,999,825

## (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成27年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【発行済株式】

平成27年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 113,000		1(1) 発行済株式の「内容」欄に記載のとおりであります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 16,238,000	16,238	同上
単元未満株式	普通株式 180,157		
発行済株式総数	16,531,157		
総株主の議決権		16,238	

- (注) 1. 「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が530株含まれております。  
2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式558株が含まれております。

## 【自己株式等】

平成27年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社K V K	岐阜市黒野308番地	113,000		113,000	0.68
計		113,000		113,000	0.68

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成27年10月1日から平成27年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アンピシヤスによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,887,377	3,568,155
受取手形及び売掛金	6,394,578	6,602,399
電子記録債権	2,343,754	2,283,192
商品及び製品	821,911	840,683
仕掛品	737,169	678,312
原材料及び貯蔵品	1,221,324	1,177,455
その他	452,968	419,222
貸倒引当金	15,370	7,790
流動資産合計	15,843,713	15,561,630
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具(純額)	1,774,962	1,722,290
土地	1,639,327	1,633,726
その他(純額)	1,906,312	2,420,457
有形固定資産合計	5,320,601	5,776,473
無形固定資産		
無形固定資産	354,020	309,693
投資その他の資産		
投資有価証券	379,174	422,037
退職給付に係る資産	164,213	213,975
その他	128,687	120,140
貸倒引当金	64	64
投資その他の資産合計	672,011	756,089
固定資産合計	6,346,633	6,842,256
資産合計	22,190,347	22,403,886



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,935,831	1,732,655
電子記録債務	2,474,838	2,600,571
未払法人税等	372,745	229,772
その他	1,650,562	1,674,881
流動負債合計	6,433,977	6,237,881
固定負債		
退職給付に係る負債	65,454	69,340
その他	137,114	117,452
固定負債合計	202,569	186,792
負債合計	6,636,547	6,424,674
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,831,425	2,831,425
資本剰余金	2,999,825	2,999,825
利益剰余金	9,366,536	9,860,141
自己株式	91,365	58,583
株主資本合計	15,106,420	15,632,808
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	69,986	62,661
為替換算調整勘定	316,721	212,434
退職給付に係る調整累計額	48,748	44,648
その他の包括利益累計額合計	337,958	230,447
新株予約権	109,420	115,956
純資産合計	15,553,800	15,979,212
負債純資産合計	22,190,347	22,403,886

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	17,954,837	17,183,908
売上原価	13,283,916	12,664,176
売上総利益	4,670,921	4,519,731
販売費及び一般管理費	3,350,637	3,372,349
営業利益	1,320,283	1,147,381
営業外収益		
受取利息	600	1,724
受取配当金	6,715	7,144
為替差益	-	33,569
受取賃貸料	26,683	21,687
貸倒引当金戻入額	4,968	7,580
その他	45,398	51,093
営業外収益合計	84,365	122,799
営業外費用		
売上割引	27,738	27,988
為替差損	25,566	-
その他	2,694	9,372
営業外費用合計	55,999	37,361
経常利益	1,348,649	1,232,819
特別利益		
固定資産売却益	1,797	-
特別利益合計	1,797	-
特別損失		
固定資産売却損	282	759
固定資産除却損	9,724	21,180
減損損失	36,998	-
特別損失合計	47,005	21,940
税金等調整前四半期純利益	1,303,441	1,210,879
法人税、住民税及び事業税	432,848	357,204
法人税等調整額	59,366	45,801
法人税等合計	492,214	403,005
四半期純利益	811,227	807,873
親会社株主に帰属する四半期純利益	811,227	807,873

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益	811,227	807,873
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13,465	7,324
為替換算調整勘定	289,713	104,287
退職給付に係る調整額	1,523	4,100
その他の包括利益合計	301,654	107,510
四半期包括利益	1,112,882	700,362
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,112,882	700,362

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,303,441	1,210,879
減価償却費	528,278	490,710
減損損失	36,998	-
株式報酬費用	22,100	20,433
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	46,185	49,762
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	1,523	3,885
貸倒引当金の増減額(は減少)	5,693	7,580
受取利息及び受取配当金	8,157	9,737
支払利息	27,738	27,988
為替差損益(は益)	19,734	5,402
有形固定資産売却損益(は益)	1,515	759
有形固定資産除却損	9,724	21,180
売上債権の増減額(は増加)	1,015,263	225,032
たな卸資産の増減額(は増加)	357,520	54,866
仕入債務の増減額(は減少)	546,785	11,791
その他の資産の増減額(は増加)	49,219	4,329
その他の負債の増減額(は減少)	135,293	132,337
小計	2,085,019	1,408,313
利息及び配当金の受取額	8,161	9,838
利息の支払額	27,738	27,988
法人税等の支払額	711,900	505,403
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,353,541</b>	<b>884,760</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	394,764	781,682
有形固定資産の売却による収入	256,976	9,095
投資有価証券の取得による支出	3,860	53,855
その他の支出	25,229	32,430
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>166,878</b>	<b>858,873</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
リース債務の返済による支出	23,042	22,366
ストックオプションの行使による収入	-	67
自己株式の取得による支出	1,507	1,503
配当金の支払額	285,320	286,852
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>309,869</b>	<b>310,655</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	52,934	34,453
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	929,728	319,222
現金及び現金同等物の期首残高	1,913,247	3,887,377
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,284,247	3,568,155

## 【注記事項】

## (会計方針の変更)

## (企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。 )及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。 )等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58 - 2項(4)、連結会計基準第44 - 5項(4)及び事業分離等会計基準第57 - 4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

## (四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

## (税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

## (追加情報)

従来、従業員社宅について、借上物件は支払家賃を「販売費及び一般管理費」に計上し、従業員より收受する受取家賃を「営業外収益」の「受取賃貸料」に計上しておりましたが、費用負担の実態を明確にし、損益区分をより適正とするために、第1四半期連結会計期間より当該受取家賃を「販売費及び一般管理費」の支払家賃の控除項目として処理する方法に変更しております。

この結果、前第3四半期連結累計期間の損益計算書において、「営業外収益」の「受取賃貸料」に含めて表示していた26,955千円は、「販売費及び一般管理費」から控除する組み替えを行っております。

なお、セグメント情報に与える影響については、当該箇所に記載しております。

## (四半期連結貸借対照表関係)

## 1 四半期連結会計期間末日満期手形等

四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形等が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
受取手形	- 千円	234,923千円
電子記録債権	- 千円	20,562千円

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

## 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
現金及び預金勘定	2,842,975千円	3,568,155千円
現金及び現金同等物	2,842,975	3,568,155

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月25日 定時株主総会	普通株式	147,207	9	平成26年3月31日	平成26年6月26日	利益剰余金
平成26年10月29日 取締役会	普通株式	147,187	9	平成26年9月30日	平成26年12月5日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月24日 定時株主総会	普通株式	147,170	9	平成27年3月31日	平成27年6月25日	利益剰余金
平成27年10月29日 取締役会	普通株式	147,758	9	平成27年9月30日	平成27年12月4日	利益剰余金

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当社グループは、給水栓・給排水金具・継手及び配管部材の製造・加工・仕入れ及び販売を主事業とする専門メーカーで、当社及び中国大連の子会社1社で構成された所在地別セグメント情報を報告セグメントとしております。

前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	日本	中国	計		
売上高					
外部顧客への売上高	17,881,799	73,037	17,954,837	-	17,954,837
セグメント間の内部売上高又は振替高	177,715	3,675,389	3,853,105	3,853,105	-
計	18,059,515	3,748,427	21,807,942	3,853,105	17,954,837
セグメント利益又は損失 ( ) (注)3	1,721,623	34,026	1,687,597	367,313	1,320,283

(注)1. セグメント利益調整額 367,313千円には、セグメント間取引消去43,085千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 398,058千円、棚卸資産の調整額 12,340千円が含まれております。全社費用は、主に親会社本社の総務部門等管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 追加情報に記載のとおり、表示方法の変更に伴い、セグメント利益の組み替えを行っております。この結果、日本で26,955千円セグメント利益が増加しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「日本」セグメントにおいて、機械装置の減損損失を計上しております。当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては36,998千円であります。

当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

## 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	日本	中国	計		
売上高					
外部顧客への売上高	17,126,769	57,139	17,183,908	-	17,183,908
セグメント間の内部売上高又は振替高	135,391	3,673,780	3,809,171	3,809,171	-
計	17,262,160	3,730,919	20,993,080	3,809,171	17,183,908
セグメント利益	1,348,229	253,339	1,601,569	454,187	1,147,381

(注)1. セグメント利益調整額 454,187千円には、セグメント間取引消去33,558千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 413,207千円、棚卸資産の調整額 74,538千円が含まれております。全社費用は、主に親会社本社の総務部門等管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	49円60銭	49円26銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	811,227	807,873
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	811,227	807,873
普通株式の期中平均株式数(株)	16,355,241	16,397,124
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	48円18銭	47円82銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	478,824	493,623
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

## (中間配当)

平成27年10月29日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....147,758千円

(ロ) 1株当たりの金額.....9円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成27年12月4日

(注) 平成27年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行っております。

## (重要な訴訟事件等)

当社は、平成26年8月28日付にて、JFE継手株式会社から特許侵害による訴訟の提起を受けており、現在、大阪地方裁判所にて係争中であります(損害賠償請求金額 363,000千円)。

当社としては、正当な論拠を主張し、勝訴すると確信しております。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年2月15日

株式会社ケーブイケー

(商号 株式会社 K V K)

取締役会 御中

## 監査法人アンビシヤス

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 吉田 実郎 印代表社員  
業務執行社員 公認会計士 諏訪 直樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ケーブイケー（商号 株式会社 K V K）の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成27年10月1日から平成27年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ケーブイケー（商号 株式会社 K V K）及び連結子会社の平成27年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。